

平成 24 年度 学内研究助成金 研究報告書

近畿大学

課題番号 : KS03

研究種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究助成金	<input type="checkbox"/> 研究成果刊行助成金
	<input type="checkbox"/> 21 世紀研究開発奨励金 (共同研究助成金)	<input checked="" type="checkbox"/> 21 世紀教育開発奨励金 (教育推進研究助成金)
研究課題名	情報通信技術 (Information and Communication Technology : ICT) を活用したチーム基盤型学習 (TBL) による臨床系授業 (特に、小児医療リスクマネジメント教育での実践)	
研究者所属・氏名	研究代表者 : 医学部 総合医学教育研修センター 教授 岡田 満 共同研究者 :	

1. 研究目的・内容

現在の医学教育において必要な能力養成として、チームで問題解決に当たなければならない場面がこれまで以上に増えている。そのため、チーム学習力の重要性がより強調されてきている。今回の研究では、実際の医療現場においても必要となる多職種連携教育の一環として、医学生に対して情報通信技術 (Information and Communication Technology : ICT) を活用したチーム基盤型学習 (Team based learning : TBL) を行い、臨床現場で直ぐに役立つ医学教育を実践していく。

2. 研究経過及び成果

平成 24 年度においては、情報通信技術 (Information and Communication Technology : ICT) としてのレスポンスアナライザーの手配が終わる以前に、4 年生の発達・小児コースが終了していたため、ICT を活用した TBL 講義を行う機会はなかった。

しかし、この研究の準備段階として、具体的なレスポンスアナライザーの使用法、TBL のやり方について、平成 24 年に開催された第 44 回日本医学教育学会大会に参加して、それらに必要な事柄について学ぶことが出来た。また、これまでも、第 42 回日本医学教育学会大会でのプレコングレスワークショップ I「チーム基盤型学習法 (TBL) を導入する」に参加しており、基礎的な準備についても用意出来ている。

さらに、平成 25 年 4 月には TBL を実践されている京都府立医科大学の総合診療学での講義を見学させて頂き、TBL 講義のやり方等について十分に学習を積んだ。

それらをもとに、今後の予定として、平成 25 年度 7 月に予定されている 4 年生の Unit 5 臨床各論 X 成長・小児コースにおいて、TBL 臨床授業を 3 時間行う予定である。

授業のやり方としては、我々の独自のやり方によって、実際の医療現場で行われているカンファレンスのような雰囲気が出せる TBL 講義を行い、学習者のチーム意識が高められるようなレスポンスアナライザーの使用法を行っていく予定である。

新たに ICT を活用した TBL による臨床系授業を行っていくことにより、リアルタイムに学習者が導き出した結果が表示されることから、医学生の学習意欲がさらに高まり、チームによる統一した回答を作り出す作業によって、医療現場における問題解決能力、チームでの意見の共有化・統合などの総合的な臨床判断能力を養っていく。

その授業の際に、ICT を活用した TBL 講義に対するアンケート等を行っていき、それらの内容をもとに、来年開催される第 117 回日本小児科学会学術集会にて発表していく計画である。

その他にも、2 年生に行なっているプロフェッショナリズム授業でのフィードバックを、レスポンスアナライザーを用いて行なうことなどを考慮している。

3. 本研究と関連した今後の研究計画

現在、近畿大学の医学部と薬学部の間では医薬連携合同学習会があり、医学部、薬学部の2年生、3年生を対象に行なわれている。この学習会に、レスポンスアナライザーを活用した講義を行い、よりチーム基盤型学習（TBL）としての学習効果を高めていくことを計画している。

さらに、医学生、薬学生だけでなく、看護学生、栄養師を目指す学生（農学部）を含め、近畿大学の医療系学生に対して、共通項目としてのチーム医療を学ばせ、その際にICTを活用したTBLを今後の研究計画としていく予定である。

また、当医学部では、学生の自主性を高める学習法としての問題基盤型学習（Problem based Learning：PBL）が、教員の負担が重く、学生のマンネリ化のため、縮小してきている。しかし、他の大学にては、その対応策として、TBLを取り入れているところが多くなっており、今後、医学部全体としてTBLに取り組むことを提言していく予定である。

4. 成果の発表等

発表機関名	種類（著書・雑誌・口頭）	発表年月日（予定を含む）
第117回日本小児科学会学術集会	一般講演（口頭）	平成26年4月（予定）